

学年  
通信

# 夢追人

令和7年5月16日  
第6号  
小代中学校3年生  
発行者:梅谷俊平

## ちょうどよいヒント



### 僕は風に向かって立つライオンでありたい

- ・自分の理想をかなえるには、自分の気持ちを曲げないことが大切だと思いました。
- ・前向きに、とか苦手なものに挑戦していく感じがしました。
- ・絶対に諦めない気持ちや、自分に自信を持つことが大切だと思う。
- ・何にも負けない気持ちと、その夢を叶えようとする強い意志を持って生きてみたいです。まだ夢はないけれど頑張ります。
- ・自分の理想を追い求めるためには、何かをあきらめる覚悟が必要だと思いました。あと、続ける力も必要だと思います。ずっと同じ理想を追い求めるのは大変なことだと思いました。
- ・理想を追い求めるためには、続ける意志、変わらない気持ち、学ぶ力が大切だと思いました。
- ・元婚約者のためにも後悔しないように、自分が選んだ道をまっすぐ進んでいるところがかっこいいなと思いました。
- ・自分の今できる目標を立てて、前に進み続けること、最後まで諦めずに努力をし続けていくことが必要だと思いました。
- ・前向きでいい人だと感じました。

(振り返りシートより)

先週から今週にかけて道徳が多いですね。今回は、さだまさしさんの「風立つライオン」という楽曲が題材となった資料を読みました。顔写真を見せた時には、見たことがある、と反応してくれた人もいましたが、私の父親がよく聴いていたアーティストの一人ですので、知らない人が多かったのではないかと思います。今流行っているようなアップテンポの曲も良いですが、そうではなく語りかけるような優しい歌い方で聴いている人の心をギュッとつかむいい曲でした。

今年の2月に亡くなられた柴田紘一郎という医師がモデルになったこの曲ですが、柴田先生が残された言葉で、心に残ったものを紹介します。

1日気持ち良く過ごすには花を飾りなさい  
1年の場合は植物の種を植えなさい  
100年の場合は木を植えなさい  
一生の場合は気(こころ)を大切にいなさい



数学の時間に練習問題が早く終わってしまった人は、まだ頑張っている人のミニ先生になっているシーンを見たことがあります。この活動は、教わる子にも教える子にも学びの強い活動です。

教える側に大切なのは「ちょうどよいヒントを出す」ということです。この「ちょうどよいヒント」とは答えを言うのではなく、悩んでいる人が次の一步を踏み出せるようになるヒントのことです。「ちょうどよいヒント」を出すには学びの体系的な理解や相手意識の在り方について理解することが大切になります。特に、自分本位でなく、相手の状況に合わせて関わる力は、生きる力に繋がるコミュニケーション能力になります。

また、教わる子も「うまくヘルプを出す」「わからない部分を伝えて聞く」などの力は社会に出てから、特に重要になるものです。

この「ちょうどよいヒント」の考え方は数学の時間に限りません。「自分の得意なことは人に教えることでさらに高めていく」「苦手なことは上手に聞きながらクリアする」。そんな力を高めることができるように助言をしていきたいと考えています。

余談ですが、職員室では、新聞に週何度が掲載される間違い探しが行われています。(やっているのは4人くらいですが)私はいつも1~2分で解いてしまうのですが、わからないなあ、と悩んでいる先生もいます。そんな時にちょうどよいヒントを出せたらいいなと思うのですが、あまりヒントを出しすぎると、見つけた時の達成感が半減するので、どうすればいいかなと、いつも考えています。